

平成29年度

事業報告書

社会福祉法人長岡東山福祉会

平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会重点施策及び運営方針に基づき、次の事業を実施した。

【社会福祉法人長岡東山福祉会本部事業】

1. 事業運営の成果

(1) 理事会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月5日	理事9/7名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会福祉法人長岡東山福祉会事業所」の応研サーバー再構築及びクライアント入替え整備事業に伴うリース契約締結について(報告) ・理事長の職務執行状況について(報告) ・平成28年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・社会福祉法人長岡東山福祉会役員及び評議員の報酬等支給基準並びに報酬について ・デイサービスセンターかつぼ園通所介護(介護予防通所介護)運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき通所介護(介護予防通所介護)運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護)運営規程の一部改正について ・定時評議員会の招集について ・社会福祉法人長岡東山福祉会理事及び監事の選任について
6月21日	理事5/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人長岡東山福祉会理事長の選定について ・社会福祉法人長岡東山福祉会業務執行理事の選定について
12月26日	理事5/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・「BSN愛の募金」短期入所事業かつぼ園のスタンダード車椅子備品整備への助成金贈呈について(報告) ・理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について(報告) ・平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会第1次補正予算について ・社会福祉法人長岡東山福祉会給与規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等給与規則の一部改正について
3月26日	理事6/6名 (監事1/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について(報告) ・予備費の使用について(報告) ・平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会第2次補正予算について ・平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について ・社会福祉法人長岡東山福祉会就業規則の一部改正について

開催日	出席者数	議案
3月26日	理事6/6名 (監事1/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等就業規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会給与規則の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等給与規則の一部改正について ・デイサービスセンターかつぼ園通所介護（介護予防通所介護）運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき通所介護（介護予防通所介護）運営規程の一部改正について ・グループホーム花の里かつぼ認知症対応型共同生活介護（介護予防認知症対応型共同生活介護）運営規程の一部改正について ・デイサービス花の里かつぼ共用型認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について ・長岡市地域包括支援センターふそき長岡市地域包括支援センター（介護予防支援）運営規程の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会経理規程の一部改正について ・福祉センターふそきセンター長の退任と後任センター長の選任について

(2) 定時評議員会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月21日	7/7名 (理事1名)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・社会福祉法人長岡東山福祉会理事及び監事の選任について ・社会福祉法人長岡東山福祉会役員及び評議員の報酬等支給基準並びに報酬について ・平成29年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について（報告）

(3) 法人本部の取り組み

- ・10月に法人創設30周年の式典を開催し、ご支援をいただいた関係者、地域住民、ボランティア団体を招き感謝の意を表し、社会福祉法人としての責務と地域への貢献の拡大を新たにしました。
- ・事務局会議を定期的で開催し、法人運営に係る事項について協議を行った。また各部署の管理監督者が事業所運営するための年間アクションプランを作成し、毎月運営会議（施設部門・居宅部門）において評価、検討を実施した。
- ・職員一人ひとりの資質と意欲向上を図るためキャリアアップ制度を構築し、あわせて

人事考課制度の30年度導入に向けて協議を重ねた。

- ・地域の虚弱高齢者を対象とした、介護予防教室「お元気学校」を継続した。参加者から開催回数を増やして欲しいとの声が多数あがっているが、人員配置等も含め次年度以降の課題としたい。

(4) 専門委員会

① 人材育成委員会

研修内容について各拠点で抑えるべき項目に統一が図られていなかったことから、委員会で確認し、各拠点の担当者に助言を行う等、研修の管理を強化した。資格取得研修については、外部研修の情報を発信し参加を促した。しかし介護支援専門員に関しては職員の意識不足のためか合格者数が伸びなかった。

<資料> 研修内容

開催月	定期研修	職種別研修
4	29年度事業計画・予算について・コンプライアンスについて	
5	食中毒の予防・感染症予防に関する基礎知識 (感染対策委員会主催)	
6	リスク管理研修(リスク管理委員会主催) 身体拘束廃止について(委員会主催)	
7	権利擁護・虐待防止研修(係長主催) 個人情報保護とプライバシー保護について 接遇研修(リーダー主催)	事務職員研修 1回目
8	救急救命講習(看護職員主催、外部講師)	痰の吸引研修(特養介護職員) 1回目
9	緊急時の対応(各部署に合わせた内容)	事務職員研修 2回目
10	感染性胃腸炎・インフルエンザなどの感染症 予防対策について(感染対策委員会主催) ターミナルケア研修(係長主催)	栄養士研修
11	リスク管理研修(外部講師) 接遇研修 交通安全研修(安全運転管理者)	相談員研修 1回目 介護支援専門員研修
12	身体拘束廃止について(委員会主催) 外部研修報告会(苦情解決能力向上研修)	介護職員研修(5年未満) 中堅職員研修(5年以上15年未満) 看護職員研修
1	認知症ケア研修 外部研修報告会:苦情対応について	
2	褥瘡予防研修 介護保険制度の基礎知識(係長主催)	介護職員研修(5年未満・5年以上) 痰の吸引研修(特養職員) 2回目
3	認知症ケア研修 メンタルヘルス研修(労働衛生委員会)	相談員研修 2回目 新人フォローアップ研修

② 法人防災委員会

ケアセンター花の里かつぼが土砂災害・水害に見舞われる危機を想定し、土砂災害防止法及び水害防止法に係る避難確保計画に基づき、10月に3回目となる三拠点合同訓練を実施した。29年度は安全な避難誘導と、危機対策本部との連携・協力体制の確保強化を目的に、入居者33名・職員34名の計67名が参加した。スムーズな避難誘導と危機対策本部との連携強化を図ることはできたが、職員間の情報共有等の課題が見えたことから、次回訓練時に活かしたい。

③ 入所検討委員会

年6回開催した。29年度の待機者の傾向として、病院や老人保健施設等入所系施設に長期的に入院や入所されている方や、虐待の疑いがあり様子観察の方、低所得者、独居で親族がいないことから在宅生活が困難な方が上位に多く、緊急を要するケースが複数検討にあがることもあり、順位をつけることが難しい状況だった。

④ サービス向上委員会

入所者（利用者）及び家族に対し満足度調査と職員の自己評価の実施分析を行い、改善すべき事項をアクションプランや事業所の目標に掲げて取り組んだ。回収率の低い事業所もあり、配布方法の見直しを行ったが改善されなかった。また自己評価項目が実態に則していない職種もあり次年度の課題として取り組んでいきたい。

⑤ 広報委員会

各事業所の活動状況等を定期的にホームページに掲載することでPR効果を高めるよう取組んだが、事業所によって意識の差が生じてしまっている課題は改善されなかった。

一方、法人紹介動画が新たな人材確保へ一定の効果をもたらしていることから、より求職者へアピールするホームページへのリニューアルの検討に着手した。

⑥ 納涼祭実行委員会

29年度は晴天のなか法人30周年記念イベントとして開催し、昼の部ではご利用者が職員の神輿披露に夏祭り気分になり、夜の部では300名を超える地域住民やご家族の来場があった。参加者には記念のトートバックを配布し、屋台・縁日は大盛況だった。山本中学校吹奏楽部がオープニングを飾り悠久太鼓や大抽選会等も盛り上がりを見せた。

（5）職員の動向

家庭の事情に加えて定年後の再雇用職員の退職が多くみられた。

資格取得の介護福祉士については、介護職員総数の82%が資格を保有しており、未取得者も取得に向けて努力している。介護支援専門員については試験にチャレンジはしているが合格率は低い状況であった。

<資料>

① 採用者・退職者数

単位：人（実数）

雇用形態	採用者数		退職者数	
	正規・準	パート	正規・準	パート
29年度	11	3	11	7
28年度	22	3	16	4

② 資格保有状況 (30. 3. 31 現在)

単位：人 (実数)

区分	かつぼ園	福祉センター ふそき	ケアセンター 花の里	合計
総職員数	97	46	44	187
介護福祉士	61	24	26	111
社会福祉士	3	5	3	11
看護師	6	4	1	11
准看護師	2	1	1	4
管理栄養士	1	0	2	3
介護支援専門員	16	13	8	37

(6) 地域連携等に関すること

① 花華クラブ

- ・会員(参加者)同士の交流が深まり、声を掛け合って参加を促したり本活動以外でも交流の機会が持たれたりしていた。
- ・会員(参加者)から活動内容の要望をいただき、定期開催日の他に有志で活動するなど積極的な様子が見られた。
- ・活動の様子を随時法人ホームページに掲載することや、年間の活動を成果として「活動記録」にまとめることで会員のモチベーションアップになっているようである。
- ・研修旅行は「いくとぴあ食花～畑や かとうふぁーむ」と県内の視察とした。行程をゆったりさせたことは概ね好評であった。

② レインボー健康体操

- ・指導資格保有に必要な単位数を計画的に取得して知識と技術の向上を図り、介護予防及び地域貢献体制の維持と安全確保に努めた。
- ・花の里かつぼ定例教室は前年度より2回少ない実施でありながら、参加数は18.0%増加した。新たな参加者の定着が反映された結果と思われる。
- ・ふそき定例教室の実施回数は同数だが、参加数は13.7%減少した。冬期間の会場の狭さや降雪量が要因の一つとなっている。新規参加は途絶えていない。
- ・定例教室懇親会は5回目となった。参加者間や当方職員との交流・意思疎通の機会として有効な場となっている。
- ・法人ホームページ専用コーナーの更新に努め、介護予防の取り組みを広く発信した。
- ・体力測定数は21.0%減少し参加増の目標を達成することができなかったが、参加者には自身の身体に興味や自信をもっていただけるように努めて実施した。

<資料>

ケアセンター花の里かつぼ

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度		29年度	28年度	29年度	28年度
4	4	4	38	27	10	3	4	29	27
5	4	4	40	31	11	3	4	21	31
6	3	4	26	29	12	4	4	43	29

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度		29年度	28年度	29年度	28年度
7	4	4	40	35	1	4	4	36	35
8	3	3	32	26	2	4	3	33	26
9	5	4	54	32	3	3	4	33	32
合 計						44	46	425	360

高齢者センターふそき

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度		29年度	28年度	29年度	28年度
4	4	5	110	155	10	4	4	100	92
5	4	4	104	131	11	4	4	79	97
6	5	4	125	146	12	5	4	116	98
7	4	5	96	165	1	4	4	81	79
8	4	4	77	82	2	4	4	76	104
9	5	5	126	135	3	5	5	131	132
合 計						52	52	1,221	1,416

近隣地域老人会等

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度
美園友美会（川崎地区）	10	11	188	241
東栄・琴平 地域の茶の間（川崎地区）	1	2	13	28
愛宕 地域の茶の間（川崎地区）	4	4	33	51
稽古町 地域の茶の間（川崎地区）	4	2	37	18
若葉会（川崎地区）	8	6	141	105
さくら会（千手地区）	12	12	92	102
百束茶屋（新組地区）	1	1	13	12
楽天茶屋（新組地区）	1	1	18	22
福茶屋（新組地区）	1	0	17	0
新保2丁目福祉部会（新保地区）	4	4	105	111
新保1・2丁目福祉部会（新保地区）	0	1	0	62
新保3丁目福祉部会（新保地区）	1	1	10	15
新保4丁目福祉部会（新保地区）	0	1	0	18
新保5・6丁目福祉部会（新保地区）	0	1	0	10
稲保はっらつ会（稲保地区）	9	0	54	0
加津保楽生会（山本地区）	1	1	10	12
乙吉宮路高砂会（山本地区）	7	6	89	84
亀崎町有志サークル（山本地区）	24	24	192	182

(7) その他

① 介護予防教室「お元気学校」

虚弱高齢者を対象に介護予防を目的とする「お元気学校」を年間 19 回実施し、15 名（うち 2 名総合事業へ移行）の高齢者が参加した。レインボー健康体操や認知症予防プログラム、消防署見学等の社会参加活動や創作活動を実施した。参加者からは「もっといろいろ挑戦したい」という前向きな声が多数聞かれた。

② 子ども参観日

小学 3 年生～5 年生の 8 名の参加があった。まずは高齢者疑似体験を行い、皆で協力して装具を装着し車椅子操作等を体験した。その後親の働く様子を見学、介護等の体験を行った。子供達からは「介護の仕事は大変だけど、お母さんは笑っていて楽しそうだった。」との感想があった。その言葉に参加した子どもの親は働きがいを感じたという感想が寄せられた。

2. 経営管理

社会福祉法が改正され、経営組織のガバナンスの強化が図られ、新たなスタート年となり、法人も創立 30 周年の節目の年でもあった。公益的活動の拡充を図り、出前講座やお元気学校の参加状況も増員をみている。また、人材確保については新卒者 2 名、中途採用者 5 名と充足することができた。

収益については、施設入所は安定した稼働率を保つことができているが、在宅系サービス(通所介護事業)については実人数、延べ人数ともに減少したことで収益減となった。

【拠点・特別養護老人ホームかつぼ園】

1. 事業運営の成果

(1) 事務課

- ・28年度から継続して契約事務についての研修を行ったことにより、適正な契約事務が執行されるようになった。
- ・業務分掌の見直しや繁忙期の協力体制構築に取り組んだが、実施状況の確認や見直しが不十分だったため成果をあげることができなかった。

(2) 施設サービス課（特別養護老人ホームかつぼ園）

- ・感染予防の強化や入所者の健康管理に取り組んだ結果、インフルエンザ感染や感染性胃腸炎の発症は無く、入院者は昨年度の4割弱だった。また、空床ベッドを常に意識しスムーズな入所受け入れを行うよう努めた結果、稼働率は平均99.3%となり目標値を達成することができた。

① 1・2係

- ・利用者、家族のニーズに沿ったその人らしく心地の良い生活が送れるよう、細やかな内容の施設サービス計画を立案し、質の高いサービスの提供に努めた。
- ・多職種協働で、入所者の身体状況や生活上の心配事を家族と情報の共有を行うことでその生活を支援する事ができた。また、ご家族の面会時の声掛けを積極的に行ったことで相談しやすい雰囲気づくりができ信頼関係が構築された。
- ・看取りケアについては家族へのケアに取り組んだ。具体的には日々の状態報告を電話や文書にて細目に行い、終末期の状態を受け入れられるように支援した。ご家族の中には、終末期の状態であるという診断に対して、積極的な延命治療を望み病院へ入院された方もおられた。
- ・園児・児童・学生をはじめ多くの地域ボランティアを受け入れことで利用者の笑顔が引き出した。
- ・個々の職員の学びたい内容を把握し外部研修の参加を促した。また研修の報告を他職員へ伝達する機会を多く設け、チーム全体の知識向上に繋がった。
- ・職員の働きやすさや働きがいの向上を目指し、年齢や経験に関わらずコミュニケーションが図れる職場作りに取り組んだ。また、年次有給休暇を取得しやすい体制作りに取り組む希望に沿った取得ができた。

② 医務係

- ・利用者の日常の健康状態を把握し、協力病院、主治医と連携を図ることで、本人及び家族の望む穏やかな生活が送れるよう支援した。
- ・全職種が協働で感染症の予防に取り組み、入所者のウイルス感染の発生が防げた。
- ・他職種と連携を図り、入所者本人や家族の意向を確認し日常生活のケアに対して安心、安楽な看取り介護を提供することが出来た。
- ・外部研修で吸引実施者指導研修に参加し、専門知識を取得した。

② 給食係

- ・重度化する入所者が、最期まで口から食べる楽しみを持っていただけるよう、多職種

協働で経口維持支援に取り組むことができた。ご家族からは「最期まで大好きだったお菓子を食べてくれてうれしかった」との言葉をいただくことができた。

- ・利用者の栄養アセスメントを行い計画的な栄養ケアを実施することで、栄養状態の維持・向上に努めた。
- ・厨房内だけでなく、施設提供以外の食べ物の取り扱いについて、衛生管理の重要性を発信し、施設全体で食中毒予防に努めた。
- ・食事に変化と楽しみを持っていただけるよう、委託業者と連携して季節に合わせた行事食やバイキング食を実施し、喫食率向上に向けた食事提供を行った。普段は摂取量が少ない方が、何度もおかわりをされ「お店みたいでうれしい」との感想が聞かれた。

資料1 <入所者の状況>

① 入退所状況 (平成30年3月31日現在) 単位：人(実数)

入所前の状況						
状況	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	法人グループ プホーム	合計
29年度	6	3	13	4	1	27
28年度	11	5	13	2	0	31

退所の状況					
状況	在宅	施設で死亡 ※1 ()	協力病院 入院中死亡	病院等へ入院 のため退所	合計
29年度	0	25 (22)	2	0	27
28年度	0	32 (27)	0	0	32

※1 () ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数 単位：人(実数)

年度	介護度	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
	29年度		1	4	16	43	36
28年度		1	7	21	35	36	100

③ 月別利用数 単位：人(延べ数)

年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	29年度	人数	2,969	3,072	2,979	3,076	3,063		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	3,090	2,982	3,093	3,085	2,779	3,063		
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	2,959	3,036	2,971	3,094	3,088	2,991		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	3,079	2,961	3,103	3,067	2,754	3,084		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

29年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	365	1,993	6,251	14,258	14,038	36,905	4.04
28年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	365	2,135	7,766	14,558	11,183	36,187	3.92

⑤ 日常生活動作（平成30年3月31日現在）単位：人（実数）

生活動作尺度	区分	29年度	28年度
移動	独歩	1	2
	介助・介助具使用	11	5
	車椅子	87	93
食事	自立	45	49
	見守り	0	0
	一部介助	26	29
	全介助	25	19
	経管栄養	3	3
排泄 (日中)	トイレ 自立	9	7
	一部介助	19	23
	全介助	6	3
	ポータブルトイレ・自立	0	1
	一部介助	2	1
	全介助	0	0
	オムツ フォーレ	61 2	63 2
入浴	一般浴	19	11
	座浴	20	26
	特浴	60	63

⑥ 食事形態（平成30年3月31日現在）単位：食（実数）

主食		副食	
米飯	18	普通	13
粥	56	刻み	23
粥ミキサー	19	小刻み	2
パン粥	3	超刻み	32
経管栄養	3	ミキサー	26

資料2 <余暇活動等>

① 余暇活動の実績

単位：人

月	余暇活動内容	参加人数
4	花見ドライブ	8
	ふれあいタイム	18
5	すこやかともしび祭作品作り	6
	おはぎ作り	11
	散歩	22
	映写会	32
6	外出ドライブ	3
	すこやかともしび祭作品作り	7
	七夕飾り作り	7
7	すこやかともしび祭作品作り	12
	七夕飾りつけ	6
8	盆供養会	30
	すいか割り大会	16
	すこやかともしび祭作品作り	6
9	すこやかともしび祭作品作り	4
	おはぎ作り	9
	すこやかともしび祭見学	2
	散歩	42
10	大運動会	36
	映写会	19
11	外出ドライブ	4
	映写会	24
12	クリスマスツリー飾り付け	5
	ハンドマッサージ	47
1	新年会	43
	絵馬づくり	17
	映写会	81
	ハンドマッサージ	52
2	節分	46
3	春の訪れを感じる会	13
	彼岸供養会	30
	ふれあいタイム	6
	映写会	18
	ハンドマッサージ	52
合 計		734

② クラブ活動の実績

クラブ名	実施回数	延べ参加人数
調理クラブ	3	25
書道クラブ	12	102
歌謡クラブ	24	619
生け花クラブ	11	118
合 計	50	864

③ 特養花華クラブ参加状況（家族協力会協賛）

単位：人（延べ数）

月	実施回数	参加人数		内 容
		入所者	家族	
6	1	12	13	夏のプランター作り
7	1	12	6	風鈴短冊作り
8	1	12	7	モイストポプリ
9	1	12	9	野沢菜の種まき
10	1	12	13	秋のプランター作り
11	1	12	10	花華カレンダー作り
12	1	12	5	シクラメンの植え付け
合計	7回	84	63	※4・5・1・2・3月は実施なし

(3) 施設サービス課（短期入所事業かつぼ園）

- ・28年度より日課として取り入れたアクティビティについては、デイサービスや外部研修の内容を活用したり、導入時に体操を取り入れる等見直しを行った結果、ご利用者の笑顔も増え、利用者満足度調査の評価も上がった。また、例年通りおはぎ作りや笹だんご作りを実施し地域のボランティアからご協力いただき好評だった。
- ・入退所の送迎時や、サービス利用中に家族及び利用者意識してコミュニケーションを図ることを継続した。職員の意識もより高まり、ニーズの的確な把握ができ、それをサービス提供に反映することができた。
- ・稼働率向上のため、利用者の状態及び空室状況等について居宅介護支援事業所等関係機関に頻回に情報提供を実施した。また利用延長や新規利用者を柔軟に受け入れ目標稼働率（89%）が達成できた。しかし、利用者の平均介護度が軽くなったことから、大幅な増収にはならなかった。

資料＜利用者の状況＞

① 市別利用数

単位：人・日（延べ数）

区 分 年度	長岡市		見附市		合 計	
	人数	日数	人数	日数	人数	日数
29年度	1,591	7,333	46	641	1,637	7,974
28年度	1,226	6,994	94	633	1,320	7,627

② 月別利用数（ ）内は予防短期入所生活介護利用数 単位：人（延べ数）

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	625 (5)	619 (8)	622 (8)	684 (8)	702 (4)	713 (6)		
28年度	月	4	5	6	7	8	9		
	人数	651 (4)	621 (8)	704 (18)	700 (8)	613 (9)	720 (20)		
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	636 (11)	604 (11)	623 (11)	700 (10)	696 (10)	647 (10)		
28年度	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	709 (10)	621 (13)	605 (8)	635 (9)	592 (3)	559 (3)		

③ 介護度別利用数 単位：人（延べ数）

29年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	117	775	1,419	2,618	1,298	1,747		
28年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	109	502	1,282	2,178	1,768	1,788		

(4) 在宅サービス課（デイサービスセンターかつぼ園）

- ・新規利用者獲得と稼働率向上のため、居宅介護支援事業所を訪問し空き情報・行事等の案内も含め、事業所のPRを行った。利用登録者数は前年度を上回ることができたが、他界者等が多く利用定着へ繋がらなかった。また冬場は大雪の影響で稼働率が低下したことから、年間利用延人数も減少し、年間平均稼働率も前年度を下回ってしまった。
- ・個別機能訓練へのニーズが高いことから、外部のリハビリ専門職より計画立案や訓練時の注意点などを学び、日々の計画作成や訓練に活かすことができた。
- ・29年度は、ご利用者と共に野菜の栽培から収穫、調理を行い好評だった。
- ・通所介護サービス計画書及び認知症ケア計画書・個別機能訓練計画書を担当職員が管理することで、今までよりサービス提供内容を詳しく把握することができ、書類や記録の必要性についてより理解を深めることができた。

資料＜利用者の状況＞

① 登録者数 単位：人（実数）

区分 年度	長岡市	見附市	合計
29年度	113	10	123
28年度	112	7	119

② 利用者数

単位：人(延べ数)

区分 年度	長岡市	見附市	合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
29年度	7,471	349	7,820	364	21.5
28年度	7,641	325	7,966	364	21.9

③ 月別利用数

()内は予防通所介護及び予防通所サービス利用数

単位：人(延べ数)

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計 7,087 (733)	稼働率 85.9%
	人数	604 (61)	626 (63)	618 (51)	612 (60)	635 (53)	589 (50)		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	593 (73)	560 (74)	572 (65)	539 (57)	511 (51)	628 (75)		
28 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計 6,989 (977)	稼働率 87.6%
	人数	543 (76)	571 (77)	559 (78)	571 (82)	571 (86)	583 (85)		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	591 (92)	608 (88)	622 (76)	589 (85)	572 (71)	609 (81)		

④ 介護度別利用者数

単位：人(延べ数)

29 年 度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	733	1,960	2,193	1,632	635	667	7,820	2.36
28 年 度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	977	1,577	2,158	1,966	399	859	7,966	2.54

⑤ 行事計画

単位：人(延べ数)

月	行事計画	参加人数
4	お花見ドライブ(エコトピア寿)	43
5	ドライブ(栃尾・秋葉公園)	49
	田植え	3
6	ドライブ(平潟神社)	50
	梅ジュース作り	50
7	買物ツアー(原信)	15
8	法人納涼祭	24
	デイ夏祭り	67

月	行事計画	参加人数
9	すこやかともしび祭り見学	3
	敬老会	68
	ドライブ（宮路様）	35
	思い出の栃尾鉄道	82
10	ドライブ（金峯神社）	32
	買物ツアー（しまむら）	6
	収穫祭	47
11	干し柿作り	21
12	鏡餅作り	17
	クリスマス会	59
	収穫祭（大根収穫・煮物作り）	37
	おにぎり作り	40
1	あずき粥作り	46
	焼きおにぎり作り	21
2	節分	45
	バレンタインデーカップケーキ作り	42
3	ホワイトデーカップケーキ作り	47
	おはぎ作り	24
合 計		973

（５）在宅サービス課（在宅介護支援センターかつぼ園）

- ・利用者、家族の生活に視点をおき丁寧なアセスメントを行うため、課題整理総括表や評価表を活用し居宅サービス計画書を作成した。またサービス担当者会議の場でも活用し事業所間で共通認識を持ち、利用者の支援に取り組むことができた。
- ・医療機関や訪問看護、地区の民生委員とも積極的に連携し、自宅での生活が送れるように支援することができた。
- ・毎週 1 回の居宅会議では、事例検討の他、個々の目標に合わせた勉強会や外部研修参加後の伝達を行い、事業所内において知識、技術を共有できるように努めた。
- ・介護保険制度や介護保険外サービスのパンフレットの見直しを行い利用者、家族に配布した。これにより事業所の特徴についても詳しく説明を行うことができ、希望や利用者の状態に合ったサービス事業所を提示することができた。
- ・業務改善の一環としてフェイスシート等各種書類の形式について見直しを行い、事務作業の効率化を図ることができた。

資料<利用者の状況>

① 居宅サービス計画作成数

単位：件（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	126	125	130	135	122	128	1,529
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	126	124	123	129	131	130	
28 年 度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	131	128	130	133	127	135	1,547
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	133	126	130	125	125	124	

② 介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	18	17	16	16	17	16	196
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	15	14	17	18	18	
28 年 度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	20	21	20	20	20	20	248
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	22	22	21	22	20	20	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	0	0	0	0	1	1	37
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	8	5	8	5	6	6	

④ 訪問調査件数

29年度	232件	28年度	219件
------	------	------	------

2. ボランティア・実習生等の受け入れ

① ボランティアの受け入れ

単位：人（延べ数）

区 分		29年度	28年度	
かつぼ園	定期	個人ボランティア	116	93
		団体(グループ)ボランティア	458	333
	随時	個人ボランティア	13	6
		団体(グループ)ボランティア	23	61
		保育園・学校等	55	96
	合計		665	589

② 施設及び居宅実習・体験実習等の受け入れ

単位：人(延べ数)

受入事業所	区 分	29 年度		28 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特養かつぼ園	北陸福祉保育専門学院 (介護福祉士資格取得)	3	93	5	131
	北陸食育フードカレッジ(職業実践実習)	0	0	8	16
	長岡こども・医療・介護専門学校	0	0	1	59
	悠久山栄養調理専門学校 (栄養士資格取得)	2	14	2	20
	悠久山栄養調理専門学校 (調理師資格取得)	2	14	2	20
	障がい者職場実習	2	45	2	28
	補導委託	0	0	1	2
デイサービス	北陸福祉保育専門学院(教員免許に係る介護等体験実習)	4	20	2	10
	北陸福祉保育専門学院 (介護福祉士資格取得)	6	12	10	20
	北陸福祉保育専門学校(職業実践実習)	6	6	8	8
	新潟県社会福祉協議会 (教員免許に係る介護等体験実習)	2	10	0	0
	障がい者職場実習	0	0	1	8
支援センター かつぼ園	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	18	36	18	36
デイ・特養	福祉体験学習 (中学校)	1	3	7	15
合 計		65	353	73	361

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

事故を未然に防ぐために気付きによる事故防止の視点で研修を計画し、施設内の生活の場を映像化しKYT訓練を実施した。その効果として、日常的な小さなヒヤリに気づきことが多くなり、職員のリスクに関する意識を高めることができた。

② 食事サービス委員会

各部署から食事に関する問題点や要望などを収集し、満足感のあるおいしい食事提供に努めた。29年度は、全体の行事として寿司バイキング、さらに特養ではクリスマスバイキングを実施した。その他、季節に合わせた行事食の提供を行い、企画や食事内容の検討など、意見交換を重ね、入所者（利用者）が楽しめるよう努めた。

③ 防災委員会

日中・夜間の災害時に、安全に入所者（利用者）の避難誘導を行う為、自分の役割の把握をするためイメージトレーニングの研修を実施し、有事の際に的確な判断ができるよう訓練を行った。その結果、慌てることなく行動することが出来た。また、トランシーバーの導入により離れた現場の状況把握をすることができ、迅速に協力体制を取ることが出来た。その他、年間訓練内容は計画的に実施出来た。

④ 感染対策委員会

食中毒感染予防及び発生時の対応について年 2 回の定期研修を実施した。ノロウイルスの感染流行に備え新人対象の研修を追加で実施した。さらに嘔吐物処理の方法について全体研修の他、今年度も個別指導を実施したことで正しい処理方法を理解できたという意見が多かった。インフルエンザ発症については職員の感染はあったが入所者の感染者はいなかった。面会者への手洗い・うがい・マスク着用等、感染予防の働きかけを徹底して継続したことも結果に繋がった。

⑤ 労働衛生管理委員会

職員の定期健康診断について、要所見の結果が来ても再受診しない職員が多かったことが例年課題としてあがっていたことから、他事業所の取り組みを参考に雇い主へ受診したことを示す書類の提出を求めることとした。これにより受診率は向上し、早期に治療を行うことができた職員もいた。

⑥ 身体拘束廃止虐待防止委員会

6 月に高齢者虐待を題材とした動画を視聴し、高齢者の尊厳について再確認した。また、12 月には職員が車椅子に長時間座ってみることで、利用者の立場に立った視点で身体拘束の廃止や虐待防止について意見交換を行う研修を実施した。より深く利用者の立場に立ち考える機会になったとの振り返りが多く聞かれた。

⑦ 園芸委員会

施設玄関前の花壇やプランターの整備を実践した。日常的な管理について委員会と各部署、入所者が協力して水やり等を実施した。特に入所者が四季を感じることができる活動に力を入れ、充実した日々、また心休まる環境作りに努めた。春、秋の花壇イベントは地域の方の参加もあり、花を通して地域との交流も深まった。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

常時痰の吸引が必要な入所者はいないため、夜間を通して痰の吸引を介護職員が実施することはなかった。例年通り定期的に吸引器の点検管理及び、緊急時の対応についての研修を実施した。

4. 苦情（意見）内容

特別養護老人ホームかつぼ園	①内容	申出人 利用者 昼食提供時間が遅かった。また 12 時 20 分過ぎにでてきたご飯がいつもの量より少なくお粥は冷めていた。
	原因と対応	給食業者に対して事業所から報告を求めた。 （回答）お米の計量間違いにより、通常より 10 食分不足していたことにより、一人分の量が少なくなってしまったもの。パン食で提供できる方には急遽代替えで提供し、調整を図ったため提供時間が遅れてしまった。 （対応）業者並びに職員からご利用者に謝罪した。また給食委員会で対応策を検討した。
	改善策（結果）	（給食業者の改善点）計量ミスを防ぐためダブルチェック体制を整えた。配膳が遅れる場合は、すぐに介護現場へ連絡を取る体制を徹底した。 その後は改善された。
短期入所事業かつぼ園	①内容	申出人 ご家族 退所日に入浴したが、汚れがある下着を下洗いせず返ってきた。送迎職員からは洗ってあると言われた。細かい配慮をして欲しい。
	原因と対応	入浴介助職員と担当職員の間で洗濯物について情報伝達が正確にされていなかったことから、下洗いをせずにご家族へ返してしまった。家族に経緯を説明し謝罪した。
	改善策（結果）	入浴が退所日になり洗濯が間に合わない場合の対応を再確認し、職員並びに関係する他部署にも周知した。
	②内容	申出人 利用者 夕食のお膳が来ない。自分はお飯だが粥のお膳がきた。
	原因と対応	給食業者に対して事業所から報告を求めた。 （回答）退所者の間違いによるもの。確認不足だった。 ご利用者に謝罪し、時間は遅れたが配膳した。
	改善策（結果）	（給食業者の改善点）人員不足による配膳ミスが発生しているため、人員を増員する方向で調整した。責任者がその日の利用者の最終確認を実施することとし徹底し対応した。その後職員の異動や増員があり、改善された。
デイかつぼ園	①内容	申出者 家族 送迎職員で挨拶をしない職員がいる。注意してほしい。
	原因と対応	苦情内容は思い当たることはなかったことから、再度ご家族に確認したところ、以前働いていた職員のことだった。ご家族には気になることがあったら遠慮なく伝えてほしいと話した。
	改善策（結果）	送迎時の留意点と接遇に関する研修を実施した。

デイ か つ ぼ 園	②内容	申出者 利用者 入浴が一番最後だったためなのか、湯舟にゴミが浮いていた。
	原因 と対応	当日の入浴人数が多かったこと、職員がゴミに気付かなかったことによる。 ご本人に謝罪した。
	改善策	入浴介助時の対応や接遇など（気持ちよく利用してもらうために）について会議で周知した。
	③内容	申出者 匿名（電話） 狭い道にデイの送迎車両が停車しており、自分の車が通れなかった。またすれ違いする際道を譲ったが、会釈もなかった。
	原因 と対応	利用者自宅周辺の道幅が狭く、かつ自宅敷地内に停めるスペースがなかったことによる。また会釈はしたが、相手に見えなかったと思われた。
	改善策 （結果）	狭い道路が多い地域では駐車スペースも限られ、やむを得ない場合もあるが、周囲に迷惑をかけた場合は、相手にわかるように態度で礼を示す。また送迎車両を考慮した結果、苦情はあがっていない。
	④内容	申出者 ご家族 他者の利用者の薬（下剤）を間違えて別の利用者に飲ませてしまった。間違えて薬を内服したご利用者のご家族からは改善を求められた。
	原因 と対応	薬ケースから取り出した薬をご利用者に直接手渡しする対応だったが、ケースから手に持った薬を、思い込みと確認不足により違う利用者に渡してしまった。ご家族に謝罪し体調観察をお願いした。特に体調不良になることはなかったと連絡をいただいた。
改善策 （結果）	職員は利用者名が書いてある薬ケースを持ち運び、ご利用者の前で名前を声に出して確認し手渡すこととし、職員全員で確認した。 その後間違いは発生していない。	

【拠点・福祉センターふそき】

1. 事業運営の成果

(1) 高齢者センターふそき

- ・ 日常的な自主点検と館内清掃・消毒により安全・清潔・衛生を確保し、専門業者に委託する設備保守を含み適切に管理した。老朽化に伴う不具合は、長岡市協議と修繕・入替の執行により積極的に解消した。
- ・ 来館者総数は前年度比で 91.3%となった。立地条件に恵まれていることから市内センターの中では上位の利用実績を得ているが、幅広い世代の利用者確保は課題である。
- ・ 法人事業及び当センター自主事業利用者の作品を展示し、作品発表や自己実現の場を提供した。創作意欲の向上にもつながったと思われる。
- ・ 利用者アンケートは標準的な結果であったことから受け身的な分析となり、より質を上げるための積極的な業務・行動改善に至らなかった。
- ・ 広報の継続により、周辺住民の新規入浴利用が増加した。
- ・ 障がい者雇用を導入した。就労移行支援事業所や生活支援センターと連携し、継続して雇用するための課題解決に取り組んだ。

資料 <利用者の状況>

①利用者数

項目	年度	延べ人数	前年度比
専用室利用者	29	16,720	84.6%
	28	19,759	
個人入館者	29	17,619	98.8%
	28	17,819	
合計(総入館者)	29	34,339	91.3%
	28	37,578	

②行事等の状況

カラオケ、誕生会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度		29年度	28年度	29年度	28年度
4	1	1	106	95	10	1	1	86	85
5	1	2	83	171	11	1	1	106	99
6	1	1	87	96	12	1	1	98	98
7	1	1	82	91	1	1	1	117	136
8	2	1	154	95	2	2	2	144	186
9	1	1	86	95	3	1	1	104	107
合 計						14	14	1,253	1,354

映写会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	29年度	28年度	29年度	28年度		29年度	28年度	29年度	28年度
4	2	2	34	12	10	2	2	17	17
5	2	2	20	12	11	2	2	18	22
6	2	2	21	9	12	2	2	20	23
7	2	2	26	19	1	2	2	20	17
8	2	2	26	26	2	2	2	23	35
9	2	2	28	21	3	2	2	19	29
合 計						24	24	272	242

その他

月	内 容	参加人数	
		29年度	28年度
11	はかま紙教室	10	11
2	豆まき	30	27
合 計		40	38

(2) 長岡市デイサービスセンターふそき

- ・ 居宅介護支援事業所へ直接訪問する機会を複数回持ち介護支援専門員との信頼関係を築くことを心掛けた結果、一般型は新規利用者(実人数)が増えたが、目標稼働率には到達できなかった。認知症対応型の利点である個別対応やきめ細やかなサービス提供についてもPRしたが、実利用者数は伸び悩み、稼働率が低下し収入面に大きく影響した。
- ・ 29年度は居宅介護支援事業所等の他「かわら版」や「アクティビティ予定表」を地域への情報発信のため富曾亀地区へも配付・回覧を行った。地域ケア会議への参加などにより、地域の関係機関との連携に努めた。
- ・ 認知症対応型における個別機能訓練は、日常生活動作に係る訓練を中心に行った。外部のリハビリ専門職から具体的な助言をもらい訓練内容を見直した。
- ・ 一般型に関しては、近隣のお店での買い物や敷地内での野菜作り等多様なアクティビティを実施し、脳の活性化による認知症予防や機能訓練を実践することができた。
- ・ 自主事業として地域老人会等に向けて計画的且つ継続的に職員を派遣し、要望に沿って派遣先団体の活動の支援を実施した。体調不良により退会者が増えている団体もあり、健康増進活動に重点をおいて支援を行った。
- ・ 法人研修の他、主に介護技術を向上させる事業所内研修を複数回実施し、サービスの質の向上に努めた。

資料<利用者の状況>

① 登録者数

単位：人（実数）

年度	長岡市		合計
	一般型	認知症型	
29	150	34	184
28	131	32	163

② 利用者数

単位：人（延べ数）

年度	長岡市		合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
	一般型	認知症型			
29	9,823	2,358	12,181	365	33.2
28	10,109	2,730	12,839	365	35.1

③ 月別利用数

()内は予防通所介護及び予防通所サービス利用数

単位：人（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型	649 (133)	700 (178)	677 (165)	680 (221)	665 (157)	644 (185)	7,969 (1,854)	89.7%
		10	11	12	1	2	3		
		676 (139)	703 (134)	663 (145)	641 (124)	594 (148)	677 (125)		
	月	4	5	6	7	8	9	2,358 (0)	53.9%
	認知症型	224 (0)	222 (0)	196 (0)	203 (0)	184 (0)	198 (0)		
10		11	12	1	2	3			
197 (0)		172 (0)	185 (0)	196 (0)	183 (0)	198 (0)			
28 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型	695 (142)	717 (140)	687 (142)	699 (152)	729 (142)	706 (141)	8,495 (1,614)	92.6%
		10	11	12	1	2	3		
		746 (137)	724 (132)	735 (128)	685 (119)	651 (109)	721 (130)		
	月	4	5	6	7	8	9	2,729 (0)	62.3%
	認知症型	247 (0)	256 (0)	239 (0)	225 (0)	219 (0)	229 (0)		
10		11	12	1	2	3			
221 (0)		238 (0)	223 (0)	204 (0)	202 (0)	227 (0)			

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

29 年 度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	一般型		549	1,305	2,233	3,189	1,504	861	182	9,823
	認知症型	0	0	265	535	817	52	689	2,358	3.15
28 年 度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	一般型	409	1,205	2,360	3,521	1,149	1,059	409	10,109	2.25
	認知症型	0	0	180	1,012	763	334	441	2,730	2.94

⑤ 行事等の状況

単位：人（延べ数）

月	行事内容	参加人数	
		29年度	28年度
4	お花見ドライブ	104	95
5	菖蒲湯	253	288
	外出ドライブ	—	3
6	外出ドライブ	118	—
7	ふそき夏まつり	93	106
9	長寿を祝う会	29	73
	すこやかともしびまつり見学	11	5
10	買い物外出	—	115
	甘味・外出ドライブ	127	9
	コミュニティふそきまつり見学	4	6
	博物館・水族館見学	29	—
11	山本コミュニティ芸能発表会見学	5	6
12	クリスマス会	56	64
1	新年会	67	70
2	節分	26	70
3	春を迎える会	—	67
合 計		922 人	977 人

(3) 暮らし元気アップ事業「ふそき元気塾」

- ・29年度より開始となった長岡市の日常生活支援総合事業の運営を4月末から開始した。営業日は火曜日と金曜日の週2回、定員は各20名であるが、数か月は登録人数が計画より少なかったことから、送迎範囲を見直し居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ働きかけた。その結果登録人数を確保することができた。
- ・毎回法人の運動指導員による運動機能向上プログラムを組み込み、認知症予防や口腔機能向上講座を定期的実施した。また、心身の活性化を図るため季節に応じた外出も行った。
- ・ボランティア育成や活用も求められているため、地域へ働きかけ1名の参加をみた。

資料<利用者の状況>

① 利用者数 単位：人（延べ数）

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	人数	4	72	102	95	91	123	
月	10	11	12	1	2	3		
人数	118	138	152	139	132	151		

(4) 介護プランセンターふそき

- ・週1回居宅会議と学習会を実施し、利用者の状態把握やケース検討を行った。あわせて居宅サービスや保険外サービスの情報の収集と整理を行い、資料作成しご利用者やご家族に配布した。その結果サービス内容を深く理解でき、利用者の課題に則したサービスを提示でき、支援計画の立案に活かすことができた。
- ・多職種連携を強化する為、外部研修への参加や事業所訪問を積極的に実施した。そのことで事業所担当者とは顔の見える関係作りができた。
- ・病院からの紹介ケースが増えており、入院及び退院時に円滑なサービス提供ができるよう、医療機関との連携に努めた。

資料<利用者の状況>

① 居宅サービス計画作成数 単位：件（延べ数）

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	125	126	132	121	125	127	
月	10	11	12	1	2	3		
件数	129	129	127	122	122	121		
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
件数	128	125	128	132	131	128	1,570	
月	10	11	12	1	2	3		
件数	136	137	132	132	130	131		

② 指定介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	18	17	16	17	18	15	175
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	14	13	11	11	11	
28 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	18	15	16	18	17	16	184
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	14	14	11	16	15	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

29 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	0	0	1	1	1	1	31
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	2	3	4	5	6	7	

④ 認定調査件数

29年度	185件	28年度	202件
------	------	------	------

(5) 長岡市地域包括支援センターふそき（長岡市委託事業）

- ・関係機関との連携と地域の単身世帯・高齢者世帯や今まで訪問していない高齢者と単身の子どものみの世帯を中心に戸別訪問できた。また、それにより相談件数が増え、これまで状況把握ができなかった高齢者の実態把握ができた。（台帳整備数 748 件）
- ・地域包括的支援を担う職員としての資質を高めるために幅広い研修に参加した。また認知症地域支援推進員の研修に参加し認知症に関する相談への対応力が向上した。
- ・地域包括ケア会議（圏域会議）を開催し、若い方の認知症支援について圏域内事業所と地域課題を検討した。
- ・平成 29 年度から始まった総合事業についての研修会や勉強会に参加し、総合事業の理解を深め、複雑になった給付管理も誰がみても分かりやすいマニュアルを作成することができた。
- ・虐待相談の件数が増え、地域住民に虐待防止への意識が高まり民生委員や家族、本人からの虐待相談が増えた。

資料＜利用者の状況＞

① 相談業務の状況

・相談人数

(単位:件)

年度	電話	来所	訪問	その他	合計	実態把握 年間実件数
29	1,924	360	1,179	93	3,556	748
28	1,847	392	1,024	78	3,341	769

・相談経路

(単位:件)

年度	本人	継続	家族	民生委員	福祉機関	医療機関	地域機関	現況調査	行政機関	その他	合計
29	187	696	260	29	51	48	14	268	19	33	1,605
28	191	599	287	44	72	51	9	252	23	43	1,571

・相談内容

(単位:件)

相談内容		件数		
		29年度	28年度	
介護保険	認定関係	358	367	
	サービスの紹介	319	203	
	その他	484	426	
小 計		1,161	996	
介護保険外	介護方法や介護の悩み	23	91	
	医療・疾病関係	27	109	
	高齢者の介護予防	40	61	
	配食サービス	3	1	
	外出支援サービス	16	47	
	生活支援サービス	35	36	
	福祉機器	26	28	
	住宅の増改築	17	25	
	その他サービスの取次ぎ	107	80	
	虐待防止	2	2	
	権利擁護・成年後見	6	0	
	認知症・物忘れ	92	146	
その他	506	557		
小 計		900	1,183	
ケアマネ支援	ケアマネジメント	アセスメント	1	6
		ケアプラン	0	1
		サービス調整	1	2
		モニタリング	0	0
		担当者会議	1	0

相談内容		29年度	28年度
ケアマネ支援	社会資源紹介	0	4
	医療との連携	0	4
	対人援助技術	1	2
	制度の説明	2	2
	個人の悩み	0	3
	その他	4	9
小 計		10	33
支援内容 (延べ件数)	情報収集	0	4
	内容整理・問題の明確化	2	17
	助言	6	24
	同行訪問	5	5
	会議	0	2
	経過確認	8	22
	その他	4	8
小 計		25	82
合 計		2,096	2,294

②介護予防支援実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
29	241	1,522	1,763
28	510	1,656	2,166

介護予防ケアマネジメント実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
29	772	310	1,082
28	0	0	0

③年間給付管理件数

年度	直営	委託	合計
29	1013	1,832	2,845
28	465	1,656	2,121

④介護予防事業受付件数（実件数）

項目	29年度	28年度
介護予防事業参加実人数	0	83

⑤虐待対応件数

項目	29年度	28年度
虐待支援計画作成件数	19	6

2. ボランティア・実習生の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分		29年度	28年度	
長岡市デイサービスセンターふそき	定期	個人ボランティア	137	100
		団体(グループ)ボランティア	116	116
	随時	個人ボランティア	6	25
		団体(グループ)ボランティア	22	59
		保育園・学校等	139	193
合 計		420	493	

(実習生の受け入れ)

単位：人(延べ数)

受入事業所	区 分	29年度		28年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
長岡市デイサービスセンターふそき	北陸福祉保育専門学院 (小学校教諭普通免許)	3	15	3	15
	北陸福祉保育専門学院 (企業との実践実習)	0	0	0	0
	新潟県社会福祉協議会 (介護等体験)	3	15	3	15
	東北福祉大学 (介護体験実習)	0	0	0	0
	長岡こども福祉カレッジ (レクリエーション実習)	20	10	20	10
	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	32	64	32	64
介護プランセンターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	16	32	16	32
地域包括支援センターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	10	20	14	28
合 計		84	156	88	164

3. 拠点委員会

①リスク管理委員会

各事業所に対しリスク管理面に工夫を施すことを働きかけ、それぞれの改善策をもって意識の向上を図った。デイサービスにおいては、事例検討の時間をより多くの職員が参加できる時間帯に変更したことで多面的な話し合いが可能となり、周知も容易に行うことができるようになった。これらの取り組みにより未然に防ぐことができた事については記録を残し成果として把握するべきだった。

②防災委員会

改正水防法及び土砂災害防止法で作成を義務付けられた避難確保計画を作成し、年間防災訓練計画を一部変更して初の洪水浸水想定避難訓練を実施した。この訓練結果を見直しの基として改善・継続し、洪水浸水想定区域に所在する施設であること及び災害対策基本法第49条の7に基づく指定避難所で要配慮者を対象とした避難所であることの認識強化と基本行動の徹底を図ることが課題である。

③感染対策委員会

不適切な手洗いを自覚できるよう見える化して研修に盛り込み、日常の感染予防と衛生管理意識を強化した。インフルエンザ等の季節感染は職員に見られたが、利用者やセンター内への影響は防止することができた。今後は、予防策の一つとなる消毒剤について他拠点の情報を得、より有効な物を検討・選定する。

④労働衛生管理委員会

法人全体で行う健康診断・インフルエンザ予防接種・ストレスチェックがスムーズに進むよう努めた。腰痛予防は拠点独自で取り組んで職員の健康の保持増進を図り、各事業所の状態を共有した。メンタルヘルス研修は長岡地域振興局保健指導担当のわかりやすい講義により、セルフケアの重要性を再認識することに併せ新たな手法を知ることができた。

⑤身体拘束虐待廃止委員会

身体拘束対象者の有無に関わらず様式・手順・マニュアルの見直しを行った。虐待の可能性を疑う際は、些細な状態についても介護支援専門員等関係機関と共有し早期発見を徹底した。職員に対する防止・廃止意識の啓発は研修以外にスローガンの掲示により行い、日常的に意識が薄れることのないよう工夫した。

4. 苦情（意見）内容

デイサービスセンターふそき	①内容	申出人：匿名 帰りの送迎後、対向車から当事業所車両にパッシングやクラクションを鳴らされた。事業所に帰園後先程の対向車が来られ、乗車していた方から「ハイビームだったが、気づかなかったのか」と注意された。
	原因と対応	運転していた職員は事業所に帰るまでハイビームだったことに気づかなかった。上司と共に謝罪し、相手も納得され帰られた。
	改善策（結果）	道路交通法に基づき、夜間は適切なハイビーム使用で走行し安全を確保すること、ハイビーム走行中は対向車が来たら配慮することを職員に再周知した。
	②内容	申出人：ご家族 通所介護計画を送迎時持ってきたが、書類を差し出し何も説明もなかった。また態度が威圧的に感じた。
原因と対応	職員の認識不足。マニュアルに沿った対応ができなかった。 ご家族にすぐに連絡し、管理者が訪問し謝罪した。また通所介護計画の説明を再度行った。（苦情解決結果報告書を提示した）	

デイサービスセンターふそき	改善策 (結果)	職員には接遇やマニュアルに対して再周知し、対応した職員に対して指導を行った。
	③内容	申出人：ご家族 通所介護計画書の評価を確認したところ、歩行訓練は希望がなかったと記載があった。本人（ご利用者）に確認したが声かけはなかったと言っている。怠慢ではないか。
	原因 と対応	歩行訓練を促す声かけをしていたが、拒否などで実施しないことが続き、休止してしまっていた。経緯についてご家族へ説明し謝罪した。ご本人は意欲が見られるため、今後は無理のない範囲で実施することとし、ご家族も了解された。（苦情解決結果報告書を提示した）
	改善策 (結果)	通所介護計画の評価には、実施されていない場合は理由を記載し、担当ケアマネやご家族へ連絡を取り、計画書の見直しも含め検討することを会議で周知した。あわせて、拒否的傾向のあるご利用者への声かけの工夫について検討協議した。

【ケアセンター花の里かつぼ】

(1) 特別養護老人ホーム花の里かつぼ

- ・入居者の重度化や高齢化が進み平均介護度がさらに高くなり、慢性疾患による入院があったが、感染症の発生はなく、安定した稼働率を保つことができた。

① 介護

- ・リビングにくつろぎの場としてソファを設置し、リラックスしてひとときを過ごす入居者も多く見受けられた。
- ・施設サービス計画に基づき、入居者のニーズに応じ個別の外出や外食、季節に応じた余暇活動や行事を行った。また市内のスターバックスコーヒー店による喫茶ボランティアは入居者から好評だった。
- ・外部研修に参加し職員個々の資質向上を図ることができた。法人内研修も計画通り進めることはできたが、勤務の都合で伝達研修が多くなったことが課題として上がった。

② 医務

- ・医師の指示と連携のもと、入居者の健康管理に努め疾病の早期発見、治療につなげることができ、治療を必要とする入院も複数あった。
- ・他職種やご家族と連携を図り安心して最期を迎えられるよう入居者に寄り添った看取り介護に努めた。
- ・感染予防対策の実施及び周知の徹底を行い、施設内では感染者は1人も発症しなかった。
- ・入居者の嚥下機能維持向上及び身体機能維持向上を図るため、定期的に口腔体操を行い、体を動かす機会を増やし活気のある生活につなげることができた。

③ 給食

- ・毎月茶話会で入居者の嗜好調査を行い、翌月に『リクエストメニュー』として提供することができ満足向上に繋がった。また、暦に合わせた行事食やイベント食の提供を行うことで楽しみもてる食事の提供を行うことができた。
- ・入居者の咀嚼・嚥下状態に合った食事形態及び水分形状で食事提供を行なうことで安全な食事の提供が行えた。
- ・多職種で食事観察を行ない、食事姿勢や食事用具の見直しを行った結果、全介助者の内1名が自力摂取で食事が食べられるようになった。
- ・近年の食中毒の発生傾向から、ご家族に対し生ものや果物等の持込みの制限をお知らせする等、食中毒発生防止に努めた。

資料1 <入居者の状況>

① 入退所状況

単位：人（実数）

入所前の待機場所						
待機場所	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	法人グループ ホーム	合計
29年度	4	0	1	0	5	10
28年度	1	0	1	3	2	7

退所の状況					
状況	在宅	施設内で死亡 ※1 ()	病院	他施設	合計
29年度	0	6 (4)	3	1	10
28年度	0	6 (3)	0	1	7

※1 () ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数

単位：人(実数)

年度	介護度	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
	29年度		0	0	2	12	15
28年度		0	0	4	13	12	29

③ 月別利用数

単位：人(延べ数)

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	870	899	857	882	864	796		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	876	870	891	883	808	890		
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	866	895	870	880	881	870		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	899	851	844	838	779	884		

④ 介護度別利用数

単位：人(延べ数)

29年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	1,308	4,042	5,036	10,386	4.35
28年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	1,582	3,907	4,868	10,357	4.32

⑤ 日常生活動作 (平成30年3月31日現在)

単位：人(実数)

生活動作尺度	区分	29年度	28年度
移動	独歩	1	0
	介助・介助具使用	3	4
	車椅子	25	25
食事	自立・見守り	16	14
	一部介助	4	5
	全介助	6	6
	経管栄養	3	4

生活動作尺度	区 分	29 年度	28 年度
排 泄	トイレ 自立	3	2
	一部介助	3	2
	全介助	9	10
	ポータブルトイレ		
	自立	0	0
	一部介助	0	0
	全介助	1	1
	オムツ	12	13
	フォーレ	1	1
入 浴	一般浴（座浴）	14	15
	特浴	15	14

⑥ 食事形態（平成 30 年 3 月 31 日現在） 単位：食（実数）

主食		副食	
米飯	9	普通	6
おにぎり	0	刻み	6
粥	11	超刻み	9
ミキサー	3	ミキサー	4
パン	2	ムース	0
流動食	4	流動食	4

資料 2 <余暇活動等>

余暇活動の実績 単位：人（延べ数）

月	余暇活動内容	参加人数
4	お花見ドライブ	7
	季節の花見とジェラート	3
	喫茶	23
5	イングリッシュガーデン外出	7
	喫茶	18
6	イングリッシュガーデン外出	3
	アイスパーティー	9
	お茶会	10
	喫茶	19
7	見附ドライブ（パティオにいがた）	2
	茶話会・かき氷づくり	9
	アイスクリーム会	10
	七夕まつり	29
	喫茶	19

月	余暇活動内容	参加人数
8	長岡花火観賞	4
	アイスパーティー	9
	花の里花火大会	20
	浦瀬花火観賞	7
	喫茶	22
9	敬老会	29
	テラスで食事会	9
	すこやかともしび祭り外出	5
	パティオにいがた外出ドライブ	3
	喫茶	22
10	ハイブ長岡散策	25
	手作りおやつ会	10
	喫茶	25
11	お茶会（スタバ）特養・GH 合同	15
	ケーキ購入ドライブ（個人）	1
	さつま芋パーティー	25
	喫茶	13
12	クリスマス会	29
	喫茶	24
1	たこやき作り	9
	おでん会	8
	新年会	29
	喫茶	9
2	プリンアラモード作り	9
	喫茶	22
3	ケーキで茶話会	10
	プリンアラモード作り	9
	ホットケーキ作り	10
	喫茶	20
合 計		499

（２）グループホーム花の里かつぼ

- ・入居者の重度化や高齢化が進み、慢性疾患により入院された入居者は複数いたが、リスク管理を徹底したことで、28年度と比較し転倒で骨折される方は少なかった。
- ・高校の学生寮・町内ゴミステーションの掃除や地域ボランティアとの創作活動を通じた交流を29年度も継続し実施できた。また地元の小学校へ行き児童を主体とした花壇整備活動である「ありんこ活動」に新たに参加することができ入居者の楽しみや張り

合いに繋がった。

- ・2か月に1回、地域住民の代表・家族・利用者・地域包括支援センター職員から参加頂き地域運営推進会議を開催した。参加者に幅広く事業内容や活動を知って頂く機会となった。参加者から「入居者の重度化が進む中で、地域との繋がりが途切れないように呼び込む仕掛け作りに取り組んでおり、開放的なグループホームとなっている。」との評価を頂いた。
- ・定期的に法人のホームページに活動の様子を掲載し積極的にPRを行うことができた。
- ・学生との交流や地域活動の取り組みについて、認知症介護研究・研修センターから講師の依頼を受け和歌山県御坊市においても報告を行なった。参加者から高い関心と高い評価を頂いたことで、職員の地域活動を行う意義の再確認に繋がり、さらに創意工夫が図れるようになった。

資料<入居者の状況>

① 入退居の状況

単位：人（実数）

入居前の状況					
状況	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	合計
29年度	5	0	0	0	5
28年度	4	0	0	1	5
退居の状況					
状況	在宅	施設内で死亡	病院入院・老 健等他施設	特養へ入所 ※1（ ）	合計
29年度	0	0	1	4（4）	5
28年度	0	3	0	2（1）	5

※1（ ）内は法人内施設への入居された方の数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

年度	介護度							合計
	要支援2	1	2	3	4	5		
29年度	0	0	6	8	3	1	18	
28年度	0	0	5	5	6	2	18	

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	29年度	人数	536	551	527	550	554		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	547	520	553	523	503	552		
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	485	552	526	543	544	527		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	551	539	549	555	496	557		

④ 年度介護度別数

単位：人（延べ数）

29年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	83	1,709	2,395	1,402	842	6,431	3.21
28年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	681	1,384	1,483	2,135	745	6,424	3.14

⑤ 余暇活動の実績

単位：人（延べ数）

月	余暇活動内容	参加人数
4	花見ドライブ	13
	ネーブル見附	4
	市内ドライブ	5
	悠久山ドライブ	4
5	山本地区花フェスタ	3
	浦瀬小運動会（共用デイ1名）	4
	桂小学校運動会練習見学	3
	駅前プランター整備活動	2
	中越高校寮掃除	4
	小嶋屋そば外食	9
	中庭ピクニック	18
	中越高校野球部応援（共用デイ2名）	4
桂小学校運動会・花植え（共用デイ2名）	4	
6	大凧合戦	8
	江口だんご買い物	3
	おはぎ作り（ご家族6名、地域の方13名、共用デイ3名参加）	21
	桂小学校ありんこ活動	5
	中越高校寮の掃除	4
	駅前プランター整備	2
	悠久山・防災公園ドライブ	5
	水穴町食事会	2
	見附イングリッシュガーデン（共用デイ3名）	14
	みやじ様外食	6
	山本中学校プランター活動	1
	7	夏祭り（ご家族12名、地域の方2名共用デイ利用者3名参加）
流しそうめん		18
モスバーガー愛宕店		3
桂小学校ありんこ活動		4

月	余暇活動内容	参加人数
7	中越高校野球部応援千羽鶴	3
	高校野球観戦（共用デイ利用者 2名）	6
	かつぼ観音掃除・花供え（共用デイ 2名）	3
	中越高校寮掃除	4
	野球部監督室掃除	3
	駅前プランター整備	2
8	長岡花火見学	3
	中越高校寮掃除	4
	納涼祭	18
	イオン・ラーメン三宝	1
	誕生日外食・贅	1
	中越高校野球部監督室掃除	2
	駅前プランター整備活動	2
9	長寿を祝う会（ご家族 16名参加）	18
	すこやかともしび祭り（共用デイ 2名参加）	13
	中越高校寮掃除	4
	パティオ新潟外食	8
	山本中体育祭見学（共用デイ 1名）	4
	見附イングリッシュガーデン	10
10	悠久山ドライブ（共用デイ 1名）	6
	桂小ありんこ活動	4
	国上寺・弥彦もみじ谷（共用デイ 1名）	4
	中越高校野球部監督室掃除	2
	中越高校寮掃除	4
11	山本コミセン文化祭（共用デイ 2名）	7
	中越高校野球部監督室掃除	2
	栃尾道の駅ドライブ	4
	中越高校寮掃除	4
12	大掃除・忘年会（ご家族 16名、共用デイ利用者 3名、見学者 2名）	21
	見附市内ドライブ	3
	中越高校寮掃除	4
	野球部監督室掃除	2
	ふれあい食事会	1

月	余暇活動内容	参加人数
1	水穴町賀詞交換会	1
	ネーブル見附	2
	東山ファミリーランド	4
	悠久山小動物公園	5
	パティオ新潟	6
	ダイソー新保店買い物	2
	中越高校寮掃除	4
	かつぼ園習字クラブ	2
	たこやきパーティー	18
2	節分	18
	中越高校寮掃除	4
	ふれあい食事会	1
3	見附市民の森（共用デイ1名）	2
合計		600

⑦ クラブ活動の実績

クラブ名	実施回数	参加人数
書道教室	8	80（うち共用デイ利用者30）

(3) デイサービス花の里かつぼ

- ・居宅介護支援事業所と連携を図り、ご利用者・ご家族へ適切なサービスが提供できるよう努めた。若年性認知症者や地域ケア会議で検討事例となっている方など他サービスに繋がらないケースについても、関係機関と連携を図り受け入れを実施。利用が定着している。ご本人にとって張り合いや楽しみ、ご家族にとって安心に繋がっている。また、利用者個々のニーズに沿って個別外出等の日程により利用の声掛けをし、楽しみや張り合いのある生活支援に努めた。
- ・通所介護計画に基づき、家庭的な雰囲気の中で利用者の能力に応じた日常生活動作の継続支援・他余暇活動・外出活動等を実施することができた。
- ・共用型デイサービス利用からグループホームに入居された方が2名おり、通い慣れた場所や馴染みの職員がいたためスムーズに入居することができた。

資料<利用者の状況>

①登録者数 単位：人（実数）

区分 年度	長岡市
29年度	8
28年度	7

②利用者数 単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市	稼働日数	1日あたり 平均人数
29年度	1014	365	2.77
28年度	707	365	1.93

③ 月別利用数 ()内は介護予防通所利用数 単位：人(延べ数)

29年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	53 (0)	83 (0)	92 (0)	97 (0)	96 (0)	86 (0)		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	90 (0)	83 (0)	86 (0)	89 (0)	76 (0)	83 (0)			
28年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	73 (0)	82 (0)	77 (0)	69 (0)	65 (0)	60 (0)	666 (0)	32.2%
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	67 (0)	44 (0)	43 (0)	46 (0)	39 (0)	42 (0)		

④ 介護度別利用者数 単位：人(延べ数)

29年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	0	370	301	285	58	0		
28年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	0	193	243	268	3	0		

2. ボランティア・実習生等の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分		29年度	28年度	
ケアセンタ ー花の里か つぼ	定期	個人ボランティア	17	55
		団体(グループ)ボランティア	104	30
	随時	個人ボランティア	78	1
		団体(グループ)ボランティア	90	92
		保育園・学校等	56	38
	合 計		345	348

(実習生の受け入れ)

単位：人

受入事業所	区 分	29 年度		28 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特養花の里 かつぼ	長岡こども福祉カレッジ専門 学校（介護実習）	0	0	2	2
	新潟県社会福祉協議会 （福祉職場体験）	2	7	1	5
グループホーム 花の里かつぼ	北陸食育フードカレッジ （管理栄養士業務実践実習）	0	0	4	8
	新潟県認知症実践者他施設実 習（認知症実践者研修）	1	1	2	2
合 計		3	8	9	17

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

・事故を未然に防ぐため内部研修を4回実施した。そのうち、ユニット内を撮影した動画を使用して実情を想定しての危険予知トレーニングを行った。参加職員から「前年度の写真を使用した研修よりもイメージしやすくわかりやすかった」との意見が多かった。また、事故防止マニュアルの見直し・周知徹底を行い、気づきの感性や職員の事故を未然に防ごうとする意識が高まり、前年度よりアクシデント件数が16件減少した。

② 食事サービス委員会

・検食簿の評価や入居者に対して行なう食事満足度調査の結果を受けて、食事提供の改善、希望に沿った食事提供を行なうことで、食事満足度の向上が行えた。また、入居者と共にふれあい畑で育てたさつま芋で、さつま芋パーティーと称してさつま芋を使ったお菓子作りの余暇を行なった。入居者は調理から会食まで笑顔が絶えず、普段の食事とは違った楽しみのもてる食事サービスの提供が行えた。

今後も安全で美味しい、楽しみのもてる食事サービスの提供に力を入れていく。

③ 感染対策委員会

・ノロウイルス、インフルエンザについて入居者は1人も感染することはなかった。職員1名が発症したが施設内蔓延防止することができた。流行期（11月～3月）には、面会者へ手洗い、うがい、マスク着用の声かけを行ない感染予防の働きかけを徹底して行った。今後も感染予防に対する意識を高め予防に力を入れていきたい。

④ 労働衛生委員会

・職員の定期健康診断を年1回（夜勤者は年2回）実施し、有所見者は全員受診し結果の報告受け早期治療に繋がった職員もいた。介護職員の腰痛予防のためポスターを掲示し腰痛予防体操を朝礼時等で行なった。腰痛予防の意識向上に繋がったと意見が聞かれたため今後も継続していきたい。メンタルヘルスについては健康診断時ストレスチェックを行ない自分のストレスの状態を確認してもらうことができた。

⑤ 身体拘束虐待廃止委員会

- ・職員の入居者への言葉づかいがスピーチロックに繋がる恐れがあるため、毎月スローガンを作成・掲示しスピーチロック発生防止を図ることができた。また、身体拘束防止と虐待防止に関する職員研修会を年2回実施し、職員への意識向上を図った。

⑥ 園芸委員会

- ・年2回の花壇イベントを通じて地域住民や入居者ご家族との交流・親睦を図ることができた。また、委員が中心となって花がら摘みや切り戻し等の花壇整備を行うことができた。こうした活動写真を長岡市の花いっぱいコンクールに出展したところ「職場の部で優秀賞」を頂いた。

⑦ 防災委員会

- ・防災計画に基づき、初期消火訓練・放送設備訓練・緊急連絡網訓練等の部分訓練をはじめ、水害・土砂災害を想定した避難訓練や地震・火災を想定した避難訓練を年2回実施した。避難訓練では職員同士の声かけや連携内容に課題が挙げられた。また、長岡市から外部講師を招き防災教育を実施し職員の意識・知識向上を図った。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

- ・医師より痰の吸引の指示を受けている入居者は3名となった。職員に対して安全に痰の吸引ができるように実技研修を行なった。その他物品の点検、管理を定期的に行なった。

4. 苦情（意見）内容

平成29年度 0件

【シルバーハウジング生活援助員派遣事業】

シルバーハウジング（高齢者世話付住宅）は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、生活相談、安否確認や緊急対応などを行う「生活援助員（LSA）」を配置した住宅のこと。現在、市内には3ヶ所のシルバーハウジングがあり、長岡市より当法人が生活援助員派遣事業として受託しているもの。

平成29年4月1日～平成30年3月31日

シルバーハウジング稽古町

稽古町団地県営住宅のうち20戸(平成13年から)

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	1		3	2					2			7	5
救急車手配									1					1
市役所連絡		1			2			1	1		1		1	7
家族連絡	1							1					1	3
医療・福祉機関連絡	2		3	4			2	1	1	3	1		1	18
その他														0
入退室状況	住替え(施設入所等)	1					1					1		3
	入院等													0
	他界	1												1
	その他													0

※入居者の高齢化がさらに進行し、様々な要因から長岡市、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所等と連携を取り支援する状況が多くなった。また施設へ入所される方が3名おられた。

平成29年4月1日～平成30年3月31日

シルバーハウジング千歳町

千歳団地市営住宅のうち20戸(平成18年から)

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報						1	1	1	1		1	2	1
救急車手配														0
市役所連絡														0
家族連絡														0
医療・福祉機関連絡														0
その他														0
入退室状況	住替え(施設入所等)													0
	入院等				1					1				2
	他界													0
	その他													0

※入居者の高齢化は進んでいるが、支援員が福祉機関等に連絡する方はいなかった。

平成29年4月1日～平成30年3月31日

シルバーハウジング稲葉団地

稲葉団地市営住宅のうち20戸(平成26年から)

	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	緊急呼出し件数	誤報	4			1	2	2	1	1	1	3		
救急車手配														0
市役所連絡														0
家族連絡														0
医療・福祉機関連絡		1												1
その他														0
入退室状況		住替え(施設入所等)												
	入院等	1		2		1		3	1	1	1	1		11
	他界													0
	その他		1					1						2

※入居者の高齢化がみられ、状態悪化や病気の発症により入院された方も多かった。